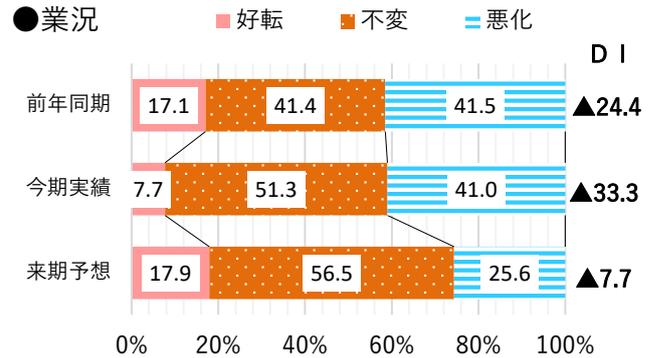


製造業

業況、売上、採算

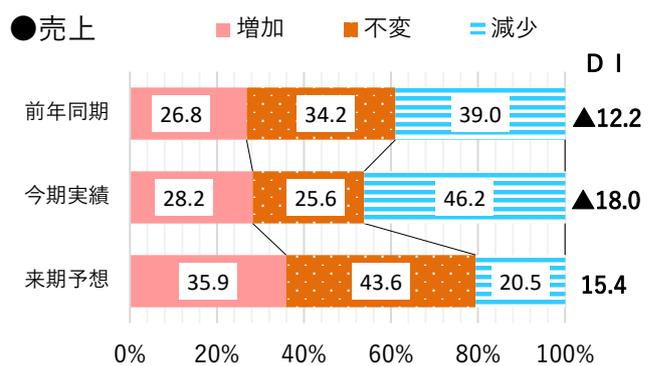
今期(2022.1~3)の業況判断DIは▲33.3で、前年同期(2021.1~3)と比べ8.9ポイント低下しました。

来期(2022.4~6)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



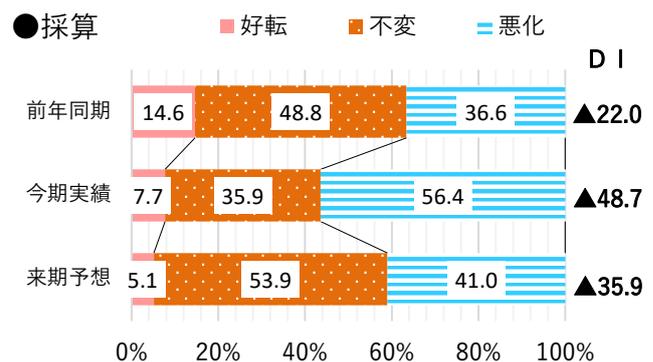
今期の売上DIは▲18.0で、前年同期と比べ5.8ポイント低下しました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

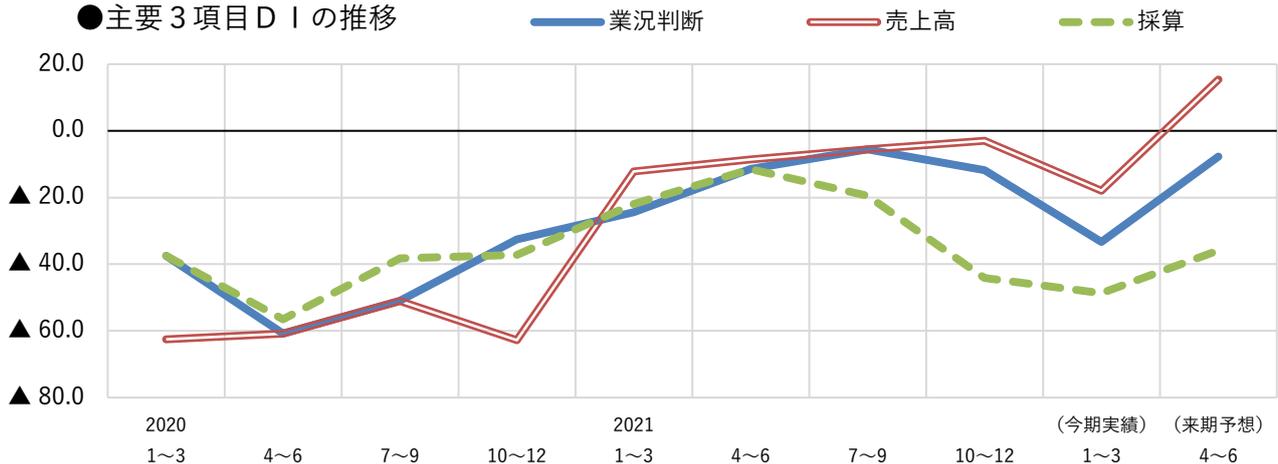


今期の採算DIは▲48.7で、前年同期と比べ26.7ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



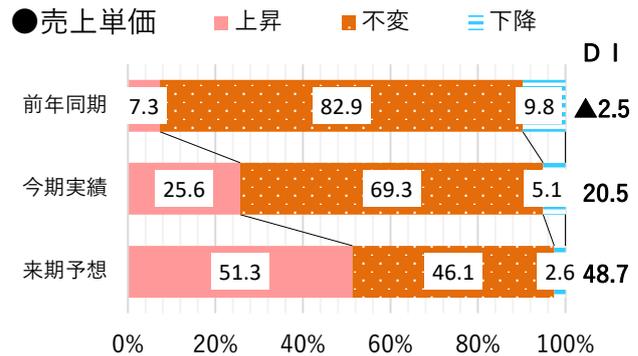
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

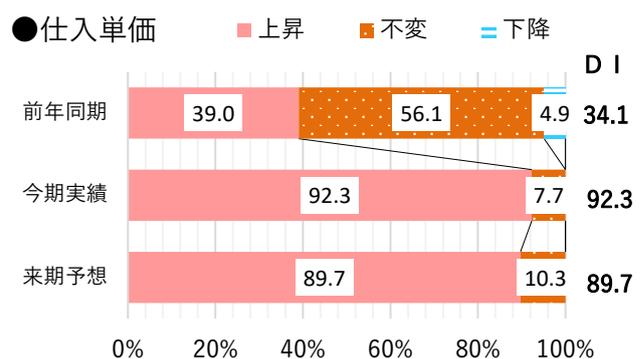
今期の売上単価DIは20.5で、前年同期と比べ23.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上単価の上昇傾向が強まると予想しています。



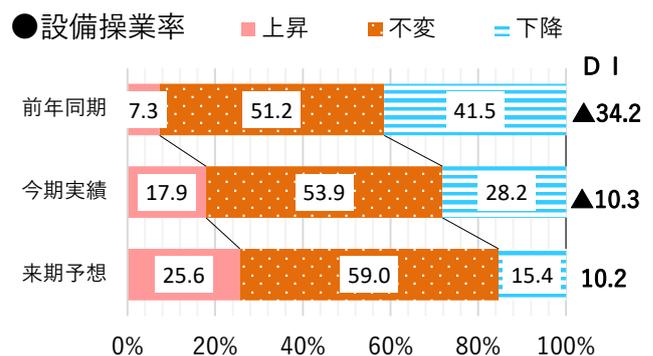
今期の仕入単価DIは92.3で、前年同期と比べ58.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲10.3で、前年同期と比べ23.9ポイントと大幅に上昇しました。

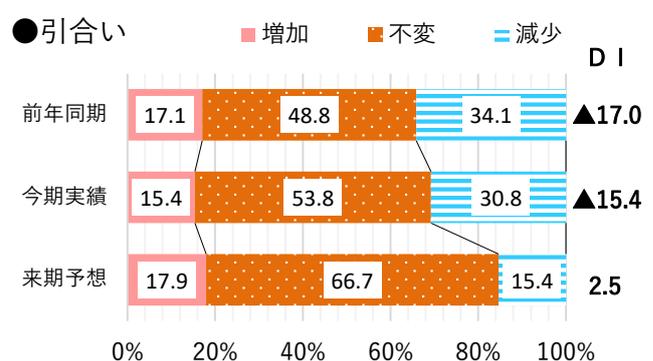
来期は、設備操業率がプラスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲15.4で、前年同期と比べ1.6ポイント上昇しました。

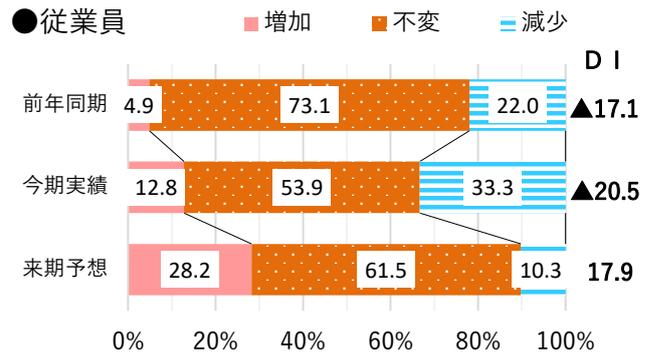
来期は、引合いがプラスに転じると予想しています。



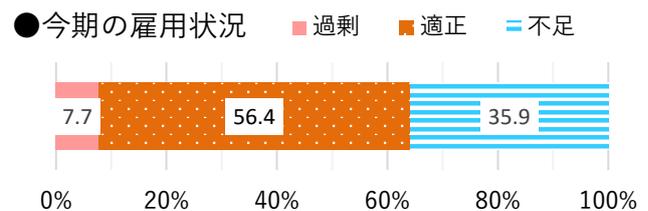
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲20.5で、前年同期と比べ3.4ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は7.7%、適正であると回答した企業の割合は56.4%、不足していると回答した企業の割合は35.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の35.8%を占めています。

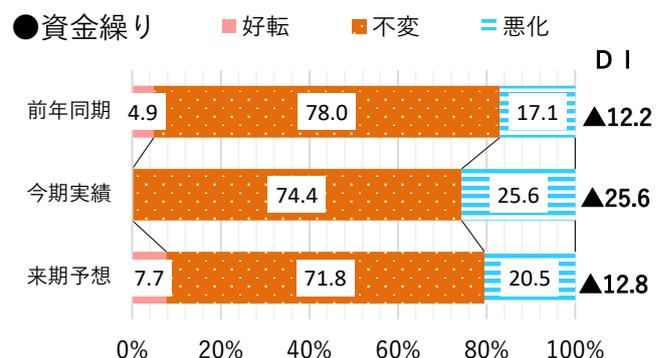
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

| 今期従業員数 | 今期の雇用状況 | 回答数 |
|--------|---------|-----|
| 増加した | 過剰 | 0 |
| | 適正 | 3 |
| | 不足 | 2 |
| 不変だった | 過剰 | 2 |
| | 適正 | 14 |
| | 不足 | 5 |
| 減少した | 過剰 | 1 |
| | 適正 | 5 |
| | 不足 | 7 |

資金繰り、設備投資

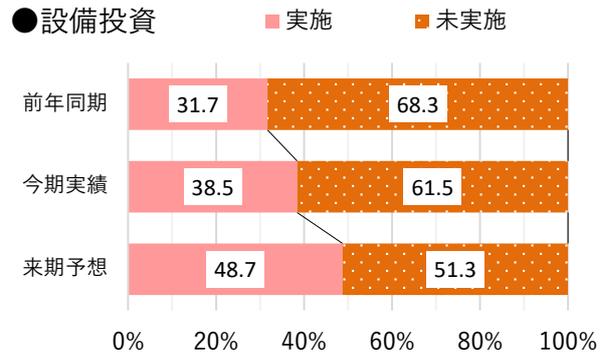
今期の資金繰りDIは▲25.6で、前年同期と比べ13.4ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



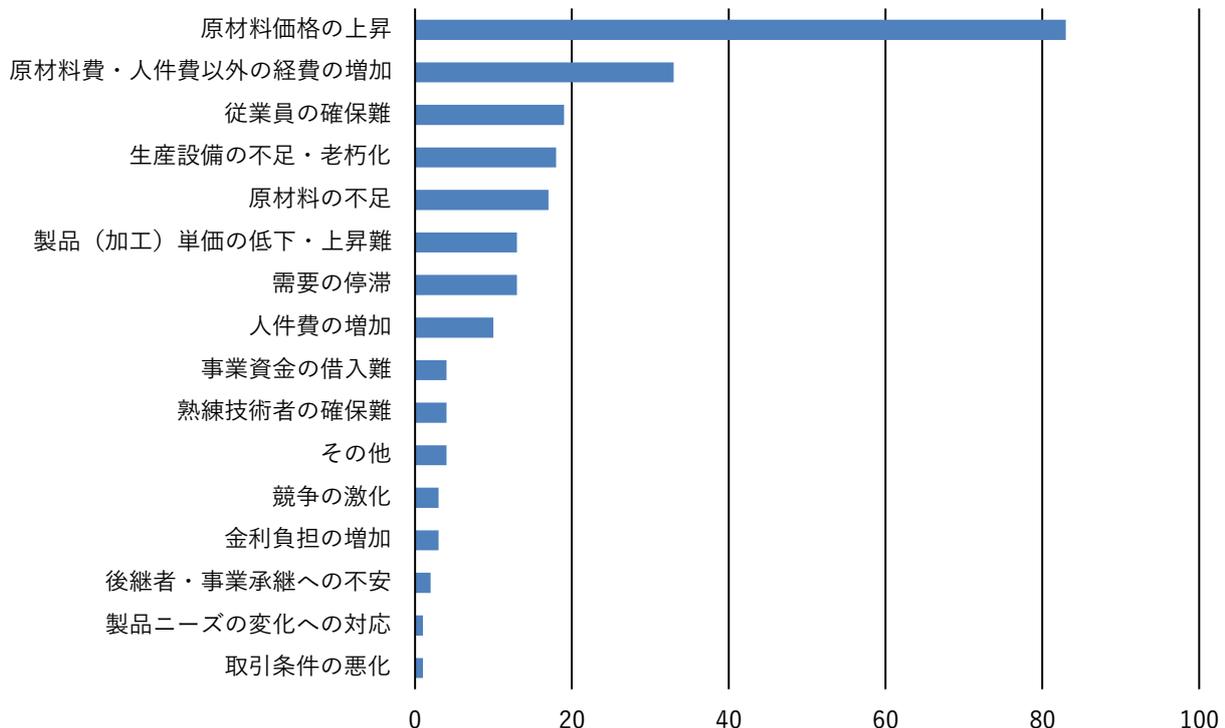
設備投資を実施した企業の割合は38.5%で、前年同期と比べ6.8%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「車両運搬具」、「付帯施設」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は48.7%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 生産や売上は予定通り推移しているが、全体量が少ないことに加え、原価の上昇によって利益率が悪化しており、実績値としては不足感が否めない。（金属製品）
- 石油やガス、原材料価格の上昇に価格転嫁が追いつかず、利益が大幅に減少している。（金属製品）
- コロナ禍により、売上が減少した。（金属製品）
- 年初から新型コロナウイルスのオミクロン株の感染が急拡大したことで、消費が急激に落ち込んだ。昨年後半から原材料や包装資材など、各種仕入価格やエネルギー価格が上昇しているが、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で上昇傾向が加速し、打つ手がない状況だ。（食料品）

- 売上が1割程度減少し、原材料仕入価格、包装資材、運賃、光熱費等経費は全て増加した。(食料品)
- まん延防止等重点措置により売上が伸び悩み、昨年同期と同程度の業績だった。(食料品)
- 原材料仕入価格の上昇と売上の減少によって、最悪の状況にある。(食料品)
- 水産加工原料が潤沢に輸入され、コロナ禍の影響もほぼなかった。(食料品)
- コロナ禍におけるECが好調で、売上が増加した。(食料品)
- 原材料仕入価格が上昇した。(食料品)
- 売上が増加した。(食料品)
- 新型コロナウイルスによる業況悪化から回復できていない。水産、農業、流通等全ての分野で需要が減少した。2021年3月以降、原材料の価格高騰、供給量減少、メーカーによる値上げによって仕入価格は50%以上上昇した。現在も価格交渉を続けている。販売価格への転嫁は10%程度で、反映時期も遅れているため、採算は悪化している。従業員の採用は実施していない。(プラスチック)
- 原油価格高騰により、原材料費、電気料金、暖房費、ガソリン代が増加した。得意先への価格転嫁は抵抗が強いので進んでおらず、採算は厳しい。(プラスチック)
- 原油高により原材料価格が高騰し、公共事業の減少により売上が減少しているが、商品価格の引き上げは難しく、苦しい状況にある。(プラスチック)
- 大手受注先からの受注減少や、仕入価格の上昇により業況が悪化した。(その他繊維製品)
- まん延防止等重点措置により、飲食店での酒類の提供が規制され、売上が伸び悩んだ。(飲料)
- まん延防止等重点措置の延長により、売上は伸び悩んだ。(飲料)
- 新型コロナウイルスの影響が今なお続き、業況は好転しなかった。(医薬品)

[来期の業況について]

- 札幌駅前再開発に関する引き合いが本格化しているが、手元の受注が増加するまで時間がかかると思う。原材料仕入価格は、元々の上昇傾向に加え、世界情勢の悪化による上昇が懸念される。(金属製品)
- 受注はあるが、原材料価格の上昇と従業員不足により、利益の減少は免れない。(金属製品)
- 需要の回復は見込めない。商品の値上げによって売上は伸びると思うが、商圏の縮小を危惧している。ロシアのウクライナ侵攻によって、原材料仕入価格は、2021年3月比で180%程度上昇すると思われる。価格転嫁は難しく、大手流通企業への販売の場合は特に厳しい。(プラスチック)
- ロシアのウクライナ侵攻により、業況の悪化が継続すると考えられる。2021年度より厳しい状況になると思う。(プラスチック)
- 今期と同じ水準で推移するだろう。(プラスチック)
- コロナ禍のため不透明感は強いが、回復を見込む。(ゴム製品)
- 新商品の開発と、販路拡大を目指す。(ゴム製品)
- コロナ禍に伴う行動制限で、営業活動が思うようにできない可能性を危惧している。(その他繊維製品)
- ロシアによるウクライナ侵攻によって、ロシアからの水産物の輸入減少や、原材料価格の高騰を懸念している。原材料値上げ分の価格転嫁ができるかどうかによって、業績が大きく左右される。(食料品)
- 売上は回復に向かうと思うが、原材料仕入価格の上昇に伴う収益の悪化を懸念している。製品価格を引き上げなければならないが、上げ幅をどうするべきか悩んでいる。(食料品)
- 各商品の値上げを実施しているが、末端小売業の抵抗が強く、市場の消費の力強さが感じられないことから、値上げの効果は予見できない。(食料品)
- ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、ロシア産海産物の輸入量が減少すれば、原材料価格の高騰が見込まれる。(食料品)
- 原材料仕入単価の上昇傾向が続く。(食料品)
- 業況は今期より悪化すると思う。(食料品)
- 売上の増加を見込む。(食料品)
- ゴールデンウィークに向けた販売戦略によって、売上の増加が期待できる。(飲料)
- コロナ禍前の売上の9割程度まで回復を見込んでいる。(飲料)
- まん延防止等重点措置の再要請がなければ、好転が期待できる。(医薬品)